

図書館だより



武雄高等学校 図書指導部

令和2年9月18日発行

今月には武陵祭があり、みなさんには楽しい思い出がたくさんできたことだと思います☆また、これからは“読書の秋”が訪れます(^_^)ぜひ図書館で読書に親しんでみてください!(*'▽`*)

☆「3年 学年文庫」開設☆



3年 学年文庫 貸出記録簿

入庫日: 2020.8.1

※学年文庫の本を借りる人は、必ず貸出の目的をクラス・出庫の返却方法などの項目を記入しなくてはなりません。貸出記録簿を貸した際にカウントしますので、手紙や賞状がほしい人は特に貸し出す前に記入をお願いします。

貸出の目的	4月の貸出	5月の貸出	6月の貸出	7月の貸出	8月の貸出	貸出の合計
1年の書						
2年の書						
3年の書						
4年の書						
5年の書						
6年の書						
7年の書						
8年の書						
9年の書						
10年の書						
11年の書						
12年の書						
13年の書						
14年の書						
15年の書						
16年の書						
17年の書						
18年の書						
19年の書						
20年の書						
21年の書						
22年の書						
23年の書						
24年の書						
25年の書						
26年の書						
27年の書						
28年の書						
29年の書						
30年の書						
31年の書						
32年の書						
33年の書						
34年の書						
35年の書						
36年の書						
37年の書						
38年の書						
39年の書						
40年の書						
41年の書						
42年の書						
43年の書						
44年の書						
45年の書						
46年の書						
47年の書						
48年の書						
49年の書						
50年の書						

※貸出記録簿の記入は、必ず貸出の目的をクラス・出庫の返却方法などの項目を記入しなくてはなりません。貸出記録簿を貸した際にカウントしますので、手紙や賞状がほしい人は特に貸し出す前に記入をお願いします。

※貸出記録簿の記入は、必ず貸出の目的をクラス・出庫の返却方法などの項目を記入しなくてはなりません。貸出記録簿を貸した際にカウントしますので、手紙や賞状がほしい人は特に貸し出す前に記入をお願いします。

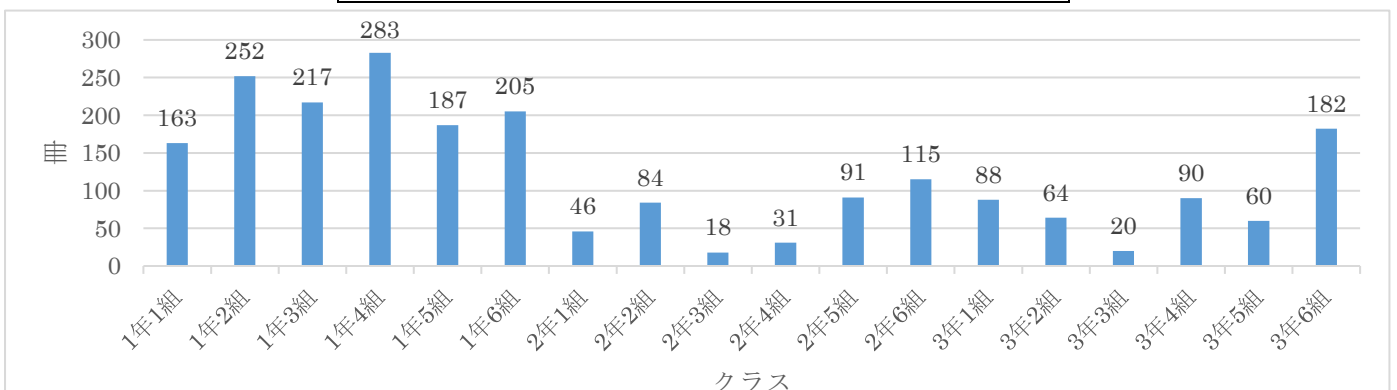
この貸出記録簿の記入を忘れずに！本が行方不明になると大変困りますので、必ず記入してください！
※1・2年生の学級文庫でも同じです！！

8月の終わりごろ、3Fの廊下に「3年 学年文庫」を開設しました!(*'▽`)3年生の学級文庫を廃止する代わりに、「3年生の読書習慣の定着、および教養を高めるために何かできないか?」という考えから学年文庫を始めました(^)/3年生のみなさんの進路実現に役立つような作品を選んで置きたいと思いますので、3年生のみなさんはぜひ学年文庫を利用してください☆また、学年文庫を利用する際には、必ず貸出記録簿(学年文庫の本棚の上に置いています)の記入をしてください!記録簿の記入をしてくれた人は、貸出冊数にカウントしますので、特に多読者賞にチャレンジしたい人はまたとないチャンスです♪(1・2年生の学級文庫でも同じです)ルールを守って、正しく学年文庫を利用しましょう(*'▽`*)

◆クラス別貸出総数◆

※2020.4.1~2020.8.31

今年度の目標…生徒1人あたり年間貸出5冊以上



1年生→すばらしい!(^)/どんどんこの調子で貸出を続けてください☆

2年生→文系・理系でかなり違いがあるようです(^_<)「理系だから本を読まなくていい」ということはありません!図書館まで行くのが大変な場合は、ぜひ学級文庫で貸出を♪

3年生→受験勉強で忙しいかと思います…。ですが、特に入試で小論文が必要な人は読書習慣を身につけたほうがいいでしょう!(*'▽`)過去の卒業生の人の中に、「小論文を書くのがとても大変で、普段から本を読んでいたらよかった…」と言っていた人が何人もいましたので(^_<)

《第163回 芥川賞・直木賞受賞作発表》

7月15日に、第163回芥川賞・直木賞の受賞作が発表されました(^)/芥川賞には高山羽根子さんの『首里の馬』と遠野遥さんの『破局』が、直木賞には馳星周さんの『少年と犬』がそれぞれ選ばれました☆この3作は図書館でも入荷予定なので、ぜひお楽しみに(^)♪

芥川賞受賞作

『首里の馬』 高山 羽根子【著】 (新潮社)



沖縄の古びた郷土資料館に眠る数多の記録。中学生の頃から資料の整理を手伝っている未名子は、世界の果ての遠く隔たった場所にいるひとたちにオンライン通話でクイズを出題するオペレーターの仕事をしていて。ある台風の夜、幻の宮古馬が庭に迷いこんできて…。世界が変貌し続ける今、しずかな祈りが切実に胸にせまる感動作。

*沖縄が歩んできた苦難の歴史が物語の背後にあることが感じられ、かつ資料館の閉鎖がきっかけで未名子が始めた「沖縄の情報を記録すること」の意義が浮かび上がる。

『破局』 遠野 遥【著】 (河出書房新社)



欲望を捨て、感情のゾンビになれ——母校のラグビー指導、公務員試験、そして新たな恋。順調な私を阻むものは、私自身に他ならない。

*著者の母校である慶應義塾大学が舞台であり、2人の女性に翻弄され、「破局」へ傾いていく主人公の姿を描く。

直木賞受賞作

『少年と犬』 馳 星周【著】 (文藝春秋)



2011年秋、仙台。震災で職を失った和正は、認知症の母とその母を介護する姉の生活を支えようと、犯罪まがいの仕事をしていた。ある日和正は、コンビニで、ガリガリに痩せた野良犬を拾う。多間という名らしいその犬は賢く、和正はすぐに魅了された。その直後、和正はさらにギャラのいい窃盗団の運転手役の仕事を依頼され、金のために引き受けることに。そして多間を同行させると仕事はうまくいき、多間は和正の「守り神」になった。だが、多間はいつもなぜか南の方角に顔を向けていた。多間は何を求め、どこに行こうとしているのか。

*愛犬家である著者だからこそ描くことのできる、犬と人間の絆や、犬に対する愛情・尊敬・感謝の気持ちを感じ取れる。